

《第 519 回(2024 年 12 月 12 日) 子どもの本の読書会記録》 参加者:9 人

時間:10:00~11:30 場所:オーテピア 4 階集会室

『小学生からの SDGs』 深井 宣光/著, 伊藤 ハムスター/イラスト KADOKAWA

12月の課題図書は、『小学生からのSDGs』でした。SDGsの17の目標すべてについて、現状や課題が、数値などを使い、わかりやすく説明されています。目標ごとにアニメも制作されており、本の中にあるQRコードから見るができます。また、参考になる本やことば解説、NPOの取り組みなどについても紹介されています。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

●盛り沢山で消化しきれなかった。日本で7人に1人が貧困であることや、ジーンズ 1本作るために水が7,500リットル必要なことなど、びっくりした。プラスチックは本来は素敵な物なのに、リサイクルがきちんとできていないことにより悪者扱いはされるのは残念。活動しているNPOや企業を応援したら、世界は良くなっていくのだろうか。

●小学生向けに未来を変える方法が書かれている。行動するきっかけ、意見を変えるきっかけを、子どもたちに積極的に語りかけている。小学生の自由な発想で、解決した未来を想像して欲しい。甘いかもしれないが、節電など自分のできるささいなことから取り組んでいきたい。

●小さい子から読みやすい本。SDGsのマークは輪になっている。ひとつひとつが関わりあっているから輪なんだと思った。ここに書いてあるどれが欠けても幸福にはなれない。自分たちに必要なのは、足るを知ること。身の回りを考えるきっかけになった。子どもたちに紹介したい本。

●自分たちが見て見ぬふりをしていることを突き付けられた。暗い内容も含まれているが、わくわくする本。章ごとにアニメがあって、読むことが苦手な子も知ることができる。いろんな場面で「責任」を感じた。安く買えることはうれしいが、安さの意味など考えると複雑な気持ち。自分も手助けをして地球を残していきたい。

●SDGsは報道でも聞かすが、よくわからないと思っていた。アニメを先に見て、本を読むと新たな発見があった。章ごとに絵や数字が具体的に書かれており、説明も最小限でわかりやすい。知ったふりをしていたことに、それではいけないと言われた気がする。親子で読むといいと思う。多くの人に手に取って欲しい本。

●イラストが明るく、理想が描かれていていいと思った。問題がひとつひとつ取り上げられていてわかりやすいが、次から次へと問題が出てくるので、そこが暗くなる。子どもたちは読んでどう思うのか。頑張らなくちゃと思うのか、未来は暗いなあと思うのか。しんどいときに、友だちと話ができるといい。理想は必要。地道にやるしかない。

●一番大切なのは、命。命があることは、みんなが共に生きてゆくこと。戦争がなくても命が保たれていることにはならない。日常の中で、身近にある問題について、身近な人と、あなたは どう思う? と話し合いができることが大事。そして、気がついたら、自分から発信していくこと。

●SDGsは気候変動や生物多様性のことだと思っていたので、取り上げる問題の多さに驚いた。知ることは大切だが、この本には情報がいっぱい。もう少しシンプルにSDGsを教えて欲しい。そして、子どもたちには、もっと物語を読んで、他者の立場になって考えることができるようになってほしい。それがSDGsにもつながる。

●どの項目も関連しあっていて、ひとつずつ解決していくものではなく、どうすれば世界のみながより良く暮らせるか考えないといけない問題。教育の問題だけみても、アフリカと日本では課題になっていることが違う。まずそれを知ることが大切。その上で、小さなことから取り組んでいきたいと思った。

次回 1月9日(木)10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

☑「冬に読みたいおすすめ本」をテーマに行きます。おすすめ本をご持参ください。

※申込み・参加費は不要です。